

**新たな移動サービス調査支援業務  
公募型プロポーザル選定委員会 議事要旨**

項 目	内 容
1	日 時
2	場 所
3	出席委員
4	議 題
5	担当部署
6	開催方法
7	議事内容

令和6年5月10日 13:00~16:25

広島県庁南館1階会議室

広島県地域政策局 公共交通政策課長  
 広島県地域政策局 中山間地域振興課長  
 広島県地域政策局 交通活性化担当課長  
 広島県総務局 DX推進チーム担当課長  
 中国運輸局交通政策部 交通企画課長

新たな移動サービス調査支援業務の最優秀提案者の選定

公共交通政策課

① 参集  
 ② 持ち回り

最優秀提案者の選定にあたり、以下のとおり質疑応答を行い、委員から評価・選定理由を確認した。

●：選定委員  
 ○：A社（株式会社中国四国博報堂）、◇：B社（株式会社タウンクリエーション）  
 △：C社（日本工営株式会社 広島支店）、☆：D社（株式会社シード・プランニング）  
 □：E社（株式会社バイタルリード 広島支店）

【質疑応答（A社）】

●：新たな移動サービスの実施区域を決めていくにあたり重視すべき点は何か。また、現時点で候補となる区域があるか。

○：首長の意欲や、交通事業者、地域住民の協力が得られるかが重要となる。また、これから公共交通計画策定を控えている地域、人材育成研修に参加した地域が望ましい。候補の区域としては神石高原町、安芸太田町、府中市、竹原市を想定しているが、広島県地域公共交通ビジョンにある3つのエリア分科会と当社の他地区での実績に基づく仮設をすり合わせて決定する事を考えている。

●：市町との調整は誰が行うのか。調整にあたっての県の役割はどう考えているか。

○：市町における調整は主に広島勤務の者。地域に馴染み、地域のコミュニティの輪に入ることが重要だと考えている。県の役割は、県としての方針、市町の思い、当社のような外部からの意見を整えることと、当社にこれまでの交通ビジョンを伝えること。当社はそのビジョンに準じた実装に向けて進めていきたいと考えている。

●：提案書 p8 に記載の「広島県の特性に沿った本省等制度設計可能性議論」は実績または具体的な制度設計の考えがあるのか。

○：具体的な制度設計まではないが、本省とは、デジタル行財政改革会議にて、地域交通の維持のための提言をしている。また、他地区で事業者協力型自家用有償旅客運送を実装した実績がある。広島でも様々な課題に応じて解決していきたい。

●：提案書にて提案してる4モデル全てを実証していくのか、それとも該当するモデルだけを実証していくのか。

○：最大4モデルを複合的に適用していきたいが、最終的な目標は利便性向上、コスト圧縮という持続性の状態にすることなので、それに向かって適切な手法を選んでいきたい。

#### 【質疑応答 (B社)】

●：提案書 p19 に記載の「移動需要分散型から地域拠点型」、「生産拠点型から地域住居型」とは、具体的にどのような事を指しているのか。

◇：「移動需要分散型から地域拠点型」とは、移動需要分散型である山間部から、町に病院があるような地域拠点型への移動の事で、エリア内の移動ではなく、エリア間での移動の需要があるのではないかという仮設。また、「生産拠点型から地域住居型」への移動に公共交通ではなく車を使用している人が多いのではないかという仮設。

●：アプリの運営主体は既存団体、新規団体のどちらでイメージしているか。

◇：現在、地域に根付いている既存団体で使用していただき、それを当社がサポートするイメージで考えている。既存団体がない地区については地元との協議になると思う。

●：提案書 p22 記載のシステム開発について、開発費用、ランニング費用を教えてください。

◇：システムは当社の既存リソースを使用するため、新規と比較して開発費用を抑えることができる。ランニング費用については50人程度の使用を想定して最小限で試算しているが、利用が増えるとそれに伴って費用が増える。

●：システムは自社開発ということか。

◇：その通り。

#### 【質疑応答 (C社)】

●：実証地域として想定しているエリアはあるか。

△：具体的なエリアはないが、地域居住型、移動需要分散型地域に該当するエリアで考えていきたい。

●：現時点で新たな移動サービスになると考えているものがあるか。

△：利用者側としてはデマンド型のドアツードアのサービスが適していると考えている。高齢者がターゲットとなると予想されるため、必ずしもアプリが必要とは

	<p>思わないが、過疎地域はライドシェアや自家用有償の活用を見据えて考えていきたい。</p> <p>●：提案書 p5 の「実現したい姿」とはどういったイメージか。</p> <p>△：自家用有償やボランティア輸送の内容を実情にあわせて組み合わせるイメージ。</p> <p>●：提案書 p2 にあるような実績はあるのか。</p> <p>△：立ち上げた実績はないが、実証全体の検証はある。</p> <p>●：令和7年度以降のシステム導入開発費、ランニング費用はどのように考えているか。</p> <p>△：既存のシステム使用を前提に考えていく。</p> <p>●：業務執行体制は地域に密着した体制は可能か。</p> <p>△：技術のサポートは大阪からになるが、広島でのサポート実績もあるため問題ないと考えている。</p> <p><b>【質疑応答 (D 社)】</b></p> <p>●：業務執行体制はどのようになっているか。</p> <p>☆：広島勤務が数名いるのでそれで対応する。</p> <p>●：提案書 p16 実施内容について、実施地域を決めるプロセス、県や市町との調整の役割はどう考えているか。</p> <p>☆：当社数名で行う。</p> <p>●：新たな移動サービスはライドシェアを軸として考えているのか。</p> <p>☆：そうだ。</p> <p>●：日本型ライドシェアは今回の実証の中では考慮されていないということでしょうか。</p> <p>☆：民間事業者のリソースの活用が可能ならそれも考えていきたい。</p> <p><b>【質疑応答 (E 社)】</b></p> <p>●：システムは既存、新規どちらでの運用を考えているか。</p> <p>□：既存のシステムで考えている。</p> <p>●：新たな移動サービスはライドシェアを軸として考えているのか。</p> <p>□：必ずしもライドシェアというわけではない。地域の実情に応じて柔軟に対応したい。</p> <p>●：広島に拠点はあるか。</p> <p>□：ある。</p> <p>●：仕様書にあるようなライドシェアの実績はあるか。</p> <p>□：島根県大田市にて自家用有償の実績がある。</p>
--	---

	<p><b>【最優秀提案者の決定】</b></p> <p>委員 A：採点の結果、総合地は A 社 373 点、B 社 284 点、C 社 332 点、D 社 350 点、E 社 363 で、A 社が高得点となった。A 社を最優秀提案者として決定したいと思うが、異議はあるか。</p> <p>委員全員：異議なし。</p> <p>委員 A：それでは、A 社を最優秀提案者とする。</p>
--	---